

キャラクター名
久白威 かなた/Kanata Kuzirai

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー モルフェウス		ワークス	FHエージェントA	カヴァー	NPO法人
	オプション		年齢	24	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	殺戮		初期侵食率	35 %
出自	父親(母親)不在		経験	殺傷	邂逅	欲望：殺人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3		0		1	4	行動値	5
感覚	2		0			2	(非装備時)	5
精神	1		0			1	戦闘移動	10
社会	2		0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：	FH	1
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	22r+1		8		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
特異点(シンギュラリティ)	P	N		
家族	P 懐旧	N 憐憫		
同級生	P 友情	N 憤懣		
“ベビーブルーアイズ”東雲葵	P 憧憬	N 偏愛		
	P 感服	N 脅威		
	P 尊敬	N 劣等感		
	P 庇護	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
サポートデバイス	5	6	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果： そのラウンドの間、【肉体】を使用した判定のダイスを+[Lv×2]個する。このエフェクトは1シナリオに3回まで使用できる。								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 飛行状態で戦闘移動を行う。その際、移動力を+[Lv×2]する。								
CR：モルフェウス	2	2	Xジャー	-	-	自動	-	
効果： 組み合わせた判定のクリティカル値を-Lvする(下限値7)。								
インスタントボム	4	3	Xジャー	至近	単体	〈白兵〉	-	
効果：「攻撃力：+[Lv×2]」の白兵攻撃を行う。このエフェクトを組み合わせた攻撃では、対象の装甲値を無視してダメージを算出する。ただし、装備している武器の攻撃力は算出されない。								
炎神の怒り	3	3	Xジャー/リアクション	-	-	【肉体】	-	
効果： このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+[Lv+1]個する。ただし、あなたは3点のHPを消費する。								
砂の加護	3	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果： 対象が判定を行う直前に使用する。その判定のダイスを+[Lv+1]個する。このエフェクトは1ラウンドに1回まで使用できる。								
不燃体	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：熱に強いことをあらかずエフェクト。あなたは、通常の炎や寒さからダメージを受けない。この効果はエフェクトによる攻撃には効果をもたない。								
炎の理	1	-	Xジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果：炎を作り出すエフェクト。ただし、この効果でダメージを与えることはできない。GMIは必要と感じたなら、〈RC〉による判定を行わせてもよい。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【概要】
人を爆殺することが大好きなFHエージェント。爆破と幸運に自信がある。劇的な殺人のために日常を大切にしているが、最近人は殺せずフラストレーションがたまっている。

【クリア済シナリオ】
《Greed in my heart》
明星竜胆を倒したが東雲葵を殺すことはせず、またの機会に取っておくことにした。茂木浦梨乃(PC1)を迎え入れ、セルリーダールの樋掛繪(PC3)と共に心新たに新拠点を構えた。

【人物像】
漫画のキャラクターが死ぬと悲しくなるのは、そのキャラの過去を知っているからだ。どんな生活を送りどんな困難を乗り越えてきたのか読者は知っているからこそ、死に直面したときの衝撃が大きくなる。相手がどんな人間かを知らなければ、ニュースで見知らぬ人が死んだとて何の感情も湧かない。これが久白威の持論である。
久白威は人間を爆殺することを好み、その際に対象に語りかけるのだ。名前に始まり、今までどんな人生を送ってきたか、過去最も苦しかった経験は何か。そうして対象への理解を深めた上で殺すと、高く積み上げた積み木を倒した時のような、背徳感と優越感を感じるのだ。故に獏良は、過去や人物像をよく知る人間を好んで殺す。

【来歴】
久白威は高校生までごく普通の人間だったが、とある放課後の教室での出来事があった。偶然ムカつく同級生と鉢合わせた。今となっては仲の悪い理由さえ思い出せないが、とにかくお互いを敵視していた。顔を合わせると口論から発展し取っ組み合いの喧嘩になった。そして同級生の胸倉をつかんだ瞬間、突如として胴体が爆発した。